

仮設住宅・みなし仮設住宅の動き（当初からの地区別の動き）

平成28年4月14日から16日にかけて発生した熊本地震から、4年が経過しようとしております。

当初仮設住宅は228戸が建設され663人の方が入居されました。中途での増減はあったものの世帯では212戸（93%）入居者では618人（93.2%）の方々が再建されました。また、みなし仮設入居者についても残り3世帯11人となり、令和2年度中には仮設・みなし仮設とも、ほぼ全員の方の再建が完了するものと思われます。

項目 地区	仮設住宅入居世帯・人数				みなし仮設住宅入居世帯・人数			
	当初		令和2年1月現在		当初		令和2年1月現在	
	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数
甲佐	6	22	1	3	11	28	0	0
宮内	0	0	0	0	1	2	0	0
竜野	10	29	1	1	3	7	0	0
乙女	154	428	11	34	27	74	3	11
白旗	58	184	3	7	19	47	0	0
合計	228	663	16	45	61	158	3	11

編集後記



平成28年6月上旬、県下で最も早く応急仮設住宅が建設された町として、新聞等で報道がなされ注目を浴びました。

さらに10月には町からの委託を受け、甲佐町地域支え合いセンターを開設しました。センターの目標は「被災者の自立した生活を被災者、地域、各関係機関とともに支えながら、被災者自身が孤立しない、ともに生きる地域づくりを行う支援をめざします。」と定め活動を開始しました。

活動する中で最も心がけたのは応急仮設住宅やみなし仮設住宅は一時的な避難場所なので、再建後困らないように自立に向けて支援しました。その結果、応急仮設住宅では自発的に近隣の入居者同士が見守りや声かけを行い、豊かなコミュニティが形成されたと思います。

地震があったことで被災者と出会い、被災時の話を共有し、様々な困難に立ち向かい強く生きて来られた話等を聞くことができました。

人は一人では生きられないことがひしひしとわかりました。誰かと一緒に活動することでより良い地域になるためには、平時から地域とのつながりや見守りなどが重要だと再確認しました。

